

浅井市川海損精算所、創業100周年 新事業も強化へ。1925年神戸で設立

浅井市川海損精算所は14日、東京都内のホテルで創立100周年記念祝賀会を開いた。多くの関係者が参加し、大きな節目を祝った。同社は、1925年に大阪商船（現商船三井）出身の浅井義晴氏と朝日海上火災保険（現あいおいニッセイ同和損害保険）出身の市川牧之助氏によって神戸で創業。現存する日本最古の海損精算事務所だ。共同海損精算業務をはじめ、船舶損害、貨物損害に関する精算業務などを手がけている。

冒頭であいさつした中島清一社長は関係者への謝意を述べるとともに、同社創立の経緯について「当時は共同海損事案を英米の海損精算人に委嘱していたが、日本海運および海事産業の発展のためには日本で共同海損精算を行う必要があったため、当社を創立した」と語り、海運国としての日本の繁栄を願った創業者の高い志に触れた。

今後については「従来の海損精算業務を基盤とし、新規事業としてコンサルティングを強化・拡充するなど、社会から必要とされ、顧客に評価・信頼される会社であり続けるよう、社員一同ますます尽力していく」と決意を述べた。

続いて、来賓を代表して三井住友海上火災保険の海山裕常務執行役員があいさつし、浅井市川海損精算所の社外取締役を務める商船三井の山宮淳法務部長による乾杯の発声で懇談に移った。

関係者による鏡開きもあり、中島氏、山宮氏、戸田総合法律事務所の戸田満弘弁護士、一橋綜合法律事務所の平田大器弁護士（日本海損精算人協会会長）、損害保険ジャパンの藤本智洋海上保険金サービス部長、三井住友海上の塩坂裕司グローバル損害サポート部長が登壇した。



祝賀会では鏡開きが行われた



中島社長